

若い世代から希望の声

—「若い歯科医師のための Oral Physician 育成セミナー」開催—

さる2006年12月10日(日)、山形県酒田市の日吉歯科診療所において、同診療所院長・熊谷崇氏主宰による「若い歯科医師のための Oral Physician 育成セミナー」が49名の参加者を集めて開催されました。

歯科大学生・大学院生、未開業の勤務医、歯科

大学病院関係者などを主な対象とする本セミナー。若い世代に早くから、Oral Physicianとして知っておくべき将来性のある新しい歯科医療像を伝えることを主旨とし、毎回、参加費無料で開催されています。以下に、受講後の参加者の希望に満ちた声を掲載します。

●開業を前に大きな転機

このセミナーに申し込んだのは、ホームページでの熊谷先生の案内の言葉を読み、どうしても開業する前に先生のお話を直接お聞きし、日吉歯科をこの目で見る必要があると思ったからです。

参加してまず感じたことは、熊谷先生の歯科医療への熱い思いとわれわれ若い世代に対する期待です。改めて歯科医師であることの責任の重さを感じ、そして今まで私が行ってきた診療が、まだまだ国際的に通用するものでないことを知りました。また、「齶蝕も歯周病も本来まれな疾患である」という Roy C. Page 先生という言葉にもはっとさせられました。まだまだ努力も勉強も足りない。私も頑張らなくては、と酒田から興奮して帰ってきました。

いま、ちょうど春の開業に向けて準備中ですが、何を目指しどういう診療システムで開業するのかということ、さっそく根本的に考え直しました。ハード面についても、本当に素晴らしい診療所内を自由に見学させていただき、たいへん参考になりました。私にとって大きな転機となるセミナーになったと感じています。本当に素晴らしい一日でした。どうもありがとうございました。

榊原 毅 (東京都・御茶ノ水杏雲ビル歯科・勤務12年目)

●自分自身のプログラムを作り出す

学生のときに初めて熊谷先生の講演をお聞きして感銘を受け、「私も患者さんの健康を守り育てる歯科医師になりたい」と期待に胸を膨らませましたが、実際に歯科医師となってみると、理想と現実のギャップが日に日に大きくなっていくように感じていました。

今回のセミナーは、今までの日本の歯科医院の

実態、医療制度と口腔健康の関係、真の患者利益と今後の展望などを中心とした講演と、日吉歯科診療所の見学および質疑応答という、とても内容の濃いものでした。対象が若い歯科医師ということで、新米の私たちに必要なことは何か、具体的にお話いただいたことが強く印象に残っています。

特に、誰かからの助言や研修を受ける際は、まずみづからがプレゼンテーションを行うこと、そして自分で考え、問題点をあげて対策を練ることで、自分自身のプログラムを作り出すこと。これらは、研修医の私にもさっそく実行できる Oral Physician への道だと思います。とても充実した一日でした。

藤田浩子 (東京歯科大学千葉病院・勤務1年目)

●「鉄は熱いうちに打て」を実感

本セミナー開催の直前まで、学生の自分について行けるのか不安もありましたが、いま、大きな岐路にある日本の歯科界で仕事をしていこうとしているこの時期にこそ、熊谷先生のお話をうかがうことはたいへん有意義だと思い参加しました。そして、セミナー開始早々にして、その思いは間違っていなかったと感じました。



「生涯で歯ほど失われる組織、器官はなく、そこにくらよい補綴処置をしたとしても、医療とは言えない」、「メンテナンス、各口腔単位の経時的な健康管理と予防管理」、「データ管理、データに基づく治療計画」、「本当の患者利益」等々。この誌面にはとても書ききれないほどの衝撃的な言葉に、どんどん先生の講演に引き込まれていきました。講演後には診療所見学もあり、これからの歯科診療所の理想形を見た気がしました。

「鉄は熱いうちに打て」との言葉があります。現在、院内実習で、失われた口腔健康状態を嘆く患者さんの姿を目の当たりにするなか、将来、本当の患者利益の実現に貢献できる歯科医師になるために、今回のセミナーはたいへん盛り多かったです。確かに、自分の未熟な「熱い鉄」は打たれた実感がします。

福田幹久（日本大学歯学部5年生）

●「技術習得」だけでなく大切なことを学ぶ

現在、私は卒業した大学の付属病院で研修医として働いています。さまざまな症状の患者さんがお見えになり、その対応に追われる日々ですが、そのなかで特にポイントをおいて考えなければならない作業は、やはり治療計画の立案です。

しかし、免許を取得し、患者さんに直接治療を施してもよい立場となったいま、どうしても一つひとつの「手作業」としての技術の習得のみに気を奪われ、少しでも腕を磨いて技術力をあげたいということばかり、つい考えがちになります。

今回、セミナーに参加させていただいて、これからの私たちの診療で何より重要なのは、患者さんを「支援」することである、と強く実感しました。患者さん個々にあった治療計画を立て、それを実践していくために、メンタリティや生活サイクルなどまで含めて俯瞰したうえで、患者さんを支援していくことが必要であると思います。もちろん、技術習得は大切です。しかし、自分をよく知ってくれている先生がいる、ということ自体が患者さんに大きな安心をもたらす、治療計画を成功に導くのではないのでしょうか。

本セミナーを受講し、歯科診療のチェアに座ることが、患者さんに不安や恐怖ではなく、安心と楽しさを与えることに変えることができる、と思

いを新たにしました。

金子早知子（東京歯科大学千葉病院・勤務1年目）

●歯科衛生士としての道を示される

今回は「若い歯科医師のための Oral Physician 育成セミナー」に学生ながら参加させていただきました。私は一度社会に出ましたが、歯科衛生士としてどうあるべきなのかという自分への疑問から、もっと知識や技術を身につけたい、そしてこの職業をずっと続けていきたいという気持ちで、再度学び直そうと考えるにいたり、現在は学生生活を送りながら、その答えを見つけ実行するために邁進しています。

日吉歯科診療所院長の熊谷先生のお話を聴かせていただき、「齲蝕も歯周病もまれな疾患」という言葉が強く印象に残りました。そして、この言葉を理解するためには、予防という概念がしっかり根づいている海外に視野を広げることの意味を強く感じました。現在の日本は、多くの国民が、齲蝕や歯周病に罹患して初めて歯科医院を訪れて治療を受け、治療が終わったときから、ようやく「予防」としてメンテナンスが始まっているケースがほとんどだと思います。しかし本来、予防はそこがスタートでは遅く、疾病に罹患する前に位置しているのだと改めて気づかされました。

予防の実践のため、日吉歯科診療所では院内のみならず、地域への啓蒙活動としての学校歯科健診や、アメリカ、スウェーデンでの海外研修などに力を入れているとのことのお話もたいへん興味深く聴かせていただきました。

今回は、多くのことに気づくことができ、これから自分が目指すべき歯科衛生士の道も示していただけだと思います。本当にありがとうございました。

富山美菜（新潟大学歯学部口腔生命福祉学科3年生）

2007年度「若い歯科医師のための Oral Physician 育成セミナー」開催予定

日時：3月25日（日）、11月23日（金・祝）

場所：山形県酒田市・日吉歯科診療所

申込先：SAT 事務局

Tel. 03-5808-2505, Fax. 03-5808-2506

<http://www.sat-iso.net>